

令和元年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和元年度 計画		実施状況		評価			
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価		
1 陶芸の普及と市民の作陶技術向上の支援	◆体験型教室の開催 ・一日体験教室(手びねり・絵付け)	●一日体験教室の開催 □手びねり・絵付け体験開催数	10回/年	8回/年	C	第6回は台風、第10回は新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止	【成果】 ・今年度は新規開設した講座(陶芸入門5日間講座、週末3日間講座)が、目標を上回る実績となりました。これらの講座は利用者アンケート、受講者の要望等により開設いたしました。受講者にとって負担の少ない日数設定と体験内容で、充実感と満足感(作品の出来上がり)、そして本格感が得られる内容に設定いたしました。曜日を週末に設定した事で、親子や20代~60代の幅広い年齢での受講がありました。また、NHKの朝のドラマの影響により、初めてのでも気軽に体験できる3日間講座、5日間講座の受講に繋がりを、陶芸人口の新規増加を進める事ができました。 ・昨年度に続き開催した一日体験教室(伝統釉薬体験)、親子陶芸教室に於いても目標を上回る実績となりました。一日体験教室(伝統釉薬体験)6講座、親子陶芸教室では、それぞれテーマに合ったテキストを作成しました。これにより講師と受講者との対話が活発になり、より充実した講座内容になりました。 ・三溪園との共催企画は、経費や収支のバランスを踏まえ、昨年度より受講料を3,500円から5,000円と値上げしましたが、定員48名の所、47名の受講がありました。受講料を値上げた分、三溪園と講座内容を練り直しました。お茶会の会場を横浜市の指定有形文化財の「白雲邸」に設定、作陶に関しては受講者の要望を個々に聞き入れました。お点前体験と作陶、どちらも受講者の楽しまれている様子をうかがう事ができました。 ・自由作陶教室は台風、新型コロナウイルス感染症拡大防止による中止が全34日間あり、目標数を上回る事ができませんでしたが、継続して受講される方が多く、毎回申込時に抽選となりました。 ・フェイスブック等の各種インターネットによる広報についても年々少しずつ浸透し、本年度は人気の講座や陶芸祭等のお知らせでは、1回の投稿で約800リーチ(閲覧数)を得る事ができました。 外国人向けには英語のパンフレットを作成し、近隣のインターナショナルスクールPTAの団体教室、一日体験、陶芸祭、陶磁器アクセサリ組立体験の受講がありました。陶芸、日本文化の発信に繋がりました。	【評価できる点】 自立型教室については、新型コロナウイルス感染症拡大防止による中止を受け利用者の減少はありましたが、高い在籍率を保っていることを評価します。 利用者アンケートなどの声から今年度新規開設した講座が目標を上回る実績となり、これまでの経験を施設運営につなげることができています。 招待作家による講座、新たな土(透光性陶土)の導入など、施設の独自性、専門性を発揮した企画を立案、実施したことを高く評価します。また、これらの様々な工夫により、参加者の作陶技術・意欲の向上だけでなく、スタッフの技術向上にもつながったことも評価します。 還元焼成費の値上げにより還元焼成利用者が減少したとのことですが、指定管理者が持つノウハウにより利用に繋げる取り組みと収支バランスの両立を期待します。 陶芸祭り(秋まつり)については、周辺施設と連携した企画や、子ども・家族向けの企画など、本イベントならではの工夫により幅広い市民の方に陶芸センターを知ってもらう機会を提供することができました。 経費とのバランスと取りながら、紙媒体(チラシ、広告掲載)、施設ウェブサイト、SNSなど様々な手法により施設の魅力を伝え、効率的に講座の周知を図ることができました。	
		□目標利用者数	130人	99人	C				
		・一日体験教室(電動ロクロ)	□電動ロクロ体験開催数	10回/年	9回/年	B			第10回は新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止
		□目標利用者数	150人	100人	C				
		・一日体験教室(季節の焼きもの)	□季節の焼き物体験開催数	3回/年	3回/年	B			ハロウィン(カップ&ソーサー、蓋付マグカップ)、クリスマスランブシェード、雛人形等、講座を季節に合わせて開催
		□目標利用者数	40人	35人	C				
		・一日体験教室(伝統釉薬体験)	□伝統釉薬体験開催数	6回/年	6回/年	B			黒織部、総織部、青磁、備前(耕耨)、備前(炭化焼成)、黄瀬戸、6種類の伝統的な釉薬にテーマを分けて開催
		□目標利用者数	60人	77人	A				
		・親子陶芸教室	●親子陶芸教室の開催 □開催数	10日/年	10日/年	B			カラフルな色化粧泥を使用し、夏休みに親子で作陶体験
		□目標利用者数	320人	372人	A				
	・陶芸祭体験教室	●陶芸祭手びねり体験、ロクロ体験、楽焼の各教室 開催 □開催回数	4日間	4日間	B	当日参加可能な体験教室			
	□目標利用者数	150人	79人	C					
	・三溪園共催企画講座	○自作の抹茶茶碗でお茶の御点前	1回/年	1回	B	陶芸センターで楽茶碗を作成し、三溪園「白雲邸」でのお点前体験を開催			
	□目標利用者数	48人	47人	B					
	・週末3日間陶芸教室	●『作陶から釉薬掛けまで』を開催する。 □開催回数	9日間	8日間	B	・週末に初めての方も気軽に作陶体験できる3日間コース(成形、削り、釉薬掛け体験可能) ・第3回の最終日は新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止			
	□目標利用者数	100人	102人	B					
	◆基礎型教室の開催 ・手びねり初級・中級	●手びねり初級教室の開催 □開催数	2回/年、14日間	2回/年、14日間	B	初心者対象講座	【課題】 ・自由作陶教室では受講者の年齢層の70代以上が半数をしめ、高齢化への対策が課題となってきました。物忘れ等の事例も発生し、利用者家族との連絡等、事業ごとに関係各所と相談しながら、安全に利用を楽しむ施設を目指します。 ・手びねり、電動ロクロ中級は利用者数が年々、減少傾向にあります。初級からの継続受講が多いので、初心者の方も「少し難しそうでもチャレンジしてみたい、自分にもできそう」と思える魅力的なテーマ設定が課題です。また、受講者にとって負担の少ない開催日数の見直しや、講座のネーミングを検討し(中級という言葉のとらえ方に個人差があり、受講のハードルを上げる事もある為)気軽に受講しやすい講座を目指します。 ・広報については幅広い年齢層に対応できる講座を各種設定しているため、それぞれのニーズに合った効果的で解かりやすい広報の検討が必要です。	【更なる取組を期待する点】 体験型教室、基礎型教室において参加者が目標を下回った講座については、理由の分析を行うとともに、目標設定についても見直したうえで次年度以降の講座の企画に活かしてください。 専門技術習得講座では、例年定員(目標)を達成できる講座が固定化しています。専門施設として事業実施の必要性を検証のうえ、講座の内容に応じた適切な目標の設定についても検討してください。 引き続き、より効果的な広報・プロモーション手法の検討・実施により、陶芸愛好家の層の拡大に取り組んでください。特に、三溪園を経由した来訪者や陶芸祭りをきっかけとした来館者など、新たな層の市民の方が施設を知り、陶芸に興味を持つことにつながる効果的なアプローチを検討してください。	
		□目標利用者数	210人	200人	B				
		●手びねり中級教室の開催 □開催数	2回/年、14日間	2回/年、14日間	B	中級の技術を習得しながら実用の器を作成(面取り技法、掻き落とし技法、スタイルフォームを使用した型作り)			
		□目標利用者数	170人	148人	C				
		・電動ロクロ初級・中級	●電動ロクロ初級教室の開催 □開催数	2回/年、14日間	2回/年、14日間	B			初心者対象講座
		□目標利用者数	180人	193人	B				
	●電動ロクロ中級教室の開催 □開催数	2回/年、14日間	2回/年、14日間	B	中級の技術を習得しながら実用の器を作成(パーツの組み合わせによる急須作り、トンボを使用した重箱作成)				
	□目標利用者数	170人	130人	C					
・陶芸入門5日間講座	●陶芸入門5日間講座の開催 □開催数	1回/年5日間	1回/年4日間	B	・初めての方も気軽に体験可能な5日間コース(電動ロクロ、手びねりの基本技法により、器を作成する) ・最終日は新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止				
□目標利用者数	50人	65人	A						
◆自律型教室の開催 ・自由作陶教室	●自由作陶教室の開催 □開催日数	348日	314日	B	・台風による臨時休館10/12,10/13(2日間)、新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止2/29、3/1~3/31(32日間)	【課題】 ・自由作陶教室では受講者の年齢層の70代以上が半数をしめ、高齢化への対策が課題となってきました。物忘れ等の事例も発生し、利用者家族との連絡等、事業ごとに関係各所と相談しながら、安全に利用を楽しむ施設を目指します。 ・手びねり、電動ロクロ中級は利用者数が年々、減少傾向にあります。初級からの継続受講が多いので、初心者の方も「少し難しそうでもチャレンジしてみたい、自分にもできそう」と思える魅力的なテーマ設定が課題です。また、受講者にとって負担の少ない開催日数の見直しや、講座のネーミングを検討し(中級という言葉のとらえ方に個人差があり、受講のハードルを上げる事もある為)気軽に受講しやすい講座を目指します。 ・広報については幅広い年齢層に対応できる講座を各種設定しているため、それぞれのニーズに合った効果的で解かりやすい広報の検討が必要です。			
	□目標利用者数	7,400人	6,324人	C					
・第2自由作陶教室	●第2自由作陶教室の開催 □開催日数	50日	45日	B	3月(5日間)は新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止				
□目標利用者数	1,100人	991人	B						
◆気軽に陶芸を体験してもらう取組 ・電動ロクロ1日体験(再掲)による市民の作陶体験	●気軽にできる陶芸体験 □電動ロクロ1日体験の開催(再掲)	10日間/年	9日間/年	B		【課題】 ・自由作陶教室では受講者の年齢層の70代以上が半数をしめ、高齢化への対策が課題となってきました。物忘れ等の事例も発生し、利用者家族との連絡等、事業ごとに関係各所と相談しながら、安全に利用を楽しむ施設を目指します。 ・手びねり、電動ロクロ中級は利用者数が年々、減少傾向にあります。初級からの継続受講が多いので、初心者の方も「少し難しそうでもチャレンジしてみたい、自分にもできそう」と思える魅力的なテーマ設定が課題です。また、受講者にとって負担の少ない開催日数の見直しや、講座のネーミングを検討し(中級という言葉のとらえ方に個人差があり、受講のハードルを上げる事もある為)気軽に受講しやすい講座を目指します。 ・広報については幅広い年齢層に対応できる講座を各種設定しているため、それぞれのニーズに合った効果的で解かりやすい広報の検討が必要です。			
	□予約無しでの陶芸体験	4日間	4日間	B					
	・各種媒体を使った広報	■新聞・タウンニュース・市営バス内の無料パンフレット等への掲載や陶芸関連書籍、陶芸関連WEBへバナーをアップする	実施	実施	—		新聞折込、神奈川新聞イベント情報、ヨコハマ・アートナビWEB版、ミレアWEB版、ミレア情報誌、『ぼど』情報誌、広報よこはま『はま情報』、フェイスブック、マガカル・ドット・ネット等掲載		
	・在留外国人向けの英語のチラシ・パンフレット作成	■一日体験・自由作陶教室・貸室等在留外国人向けに英語版のチラシ・パンフレットを作成	実施	実施	—		一日体験年3回、陶芸祭、陶磁器アクセサリ組立体験英語版作成		
	・障がい者の方、ハンディキャップのある方の参加しやすい環境改修の提案	■教室内の動線を確保するため、整理整頓を心がける	実施	実施	—		講座内、電動ロクロの配置換え		
・映像による紹介	■映像による陶芸センター、陶芸技法や作品、陶芸祭、穴窯焼成などの紹介	実施	実施	—	講座案内、陶芸技法紹介、陶芸祭、招待作家講座案内のDVDを作成し、講座教室内で放映				

令和元年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

	<p>◆次世代育成の取組 ・親子陶芸教室での小学校1年生程度を対象とした陶芸解説資料の作成 ・映像による紹介</p>	<p>●作陶活動への興味を喚起 ■小学校低学年を対象とした焼物に関する解説資料を親子陶芸などで配布</p>	実施	実施	—	『日本のやきものを探してみよう!!』を夏休み親子陶芸教室で配布
2 市民の主体的な作陶活動の支援	<p>◆専門技能習得講座として、多くのテーマの講座を企画・実施 ・電動ロクロ水挽き徹底教室 ・絵付け教室 ・(特定のやきもの教室)チャレンジ講座 ・還元焼成講座 ・大物焼成講座 ・穴窯焼成講座 ・楽焼成講座 ・サヤ鉢焼成講座 ・招待作家講座</p>	<p>●専門技能習得講座の開催 □電動ロクロ水挽き徹底教室、年間2回、8日 □目標利用者数 □絵付け教室 □目標利用者数 □チャレンジ講座 □目標利用者数 ■還元焼成講座の随時開催 □目標利用者数 □大物焼成講座の開催 □目標利用者数 ■穴窯焼成講座の開催 □目標利用者数 □一日上絵付け講座の開催 □目標利用者数 ●招待作家(外部)による特別上級講座1回(年間) □目標利用者数</p>	2回(8日間)/年 100人 2回(6日間)/年 70人 4回(20日間)/年 260人 実施 700人 2名/月 24人 実施 60人 1回 15人 1回/年 20人	2回(8日間)/年 111人 2回(6日間)/年 51人 4回(17日間)/年 127人 実施 376人 2名/月 22人 未実施 0人 1回 9人 1回/年 50人	B A B C B C — C B C B A	<p>受講者各自のレベルに合わせ、個々に電動ロクロ技術の疑問点、悩みを解消し、技術習得する</p> <p>和絵具を使用する上絵付入門講座</p> <p>・講師・アドバイザーの推奨するチャレンジ講座の開催。チャレンジ講座のみ使用できる耐熱土鍋土、透光性陶土等を使用。 ・第4回、3日分は新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止</p> <p>焼成方法(酸化焼成・還元焼成)による作品の色の変化を楽しむ</p> <p>・3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止</p> <p>薪の不足の為、中止</p> <p>アンケート、利用者より一日染付の要望が多かったため、一日上絵から一日染付に変更</p> <p>・陶芸家、星野友幸氏による練継、胴継技法を体験する講座 ・前田正博氏による講座は新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止</p> <p>陶芸祭(作陶展出品数82点)</p> <p>アマチュア陶芸展は2020年11月に開催</p> <p>週末3日間講座3回、5日間陶芸入門講座1回、開催</p> <p>チャレンジ講座にて透光性陶土を使用した講座を開催</p>
7	<p>◆作陶活動の成果発表の場の提供 ・陶芸祭での作陶展、ホームページで実施するネット特別賞、「全国公募・アマチュア陶芸展」による全国規模の作品発表の場の提供</p>	<p>□陶芸祭時に作陶展を年1回開催 全国公募・横浜アマチュア陶芸展開催 ※「全国公募・アマチュア陶芸展」は隔年開催 ■ホームページ上のネット特別賞発表「アマチュア陶芸展開催時」</p>	1回/年	1回/年	B	—
8	<p>◆(指定期間5年間に)新講座、実験的講座の開催</p>	<p>■新講座として、週末3日間講座、5日間陶芸入門講座を開催 ■講師・アドバイザーの推奨するチャレンジ講座の開催</p>	実施	実施	—	—
9	<p>◆陶芸指導者対象の研修講座の開催</p>	<p>●陶芸指導者研修講座 □開催数 □目標利用者数</p>	1回/年 15人	1回/年 28人	B A	市内小中学校、特別支援学校からの参加
10	<p>◆公益的作陶活動に対する情報提供や相談等、陶芸知識の発信による基地化</p>	<p>■小中高校・福祉施設に対し研修講座案内の案内のほか、作陶活動に必要な情報や質問に対応し、研修や電話相談等での陶芸知識の発信に努める □学童保育へのDM発送</p>	実施	実施	—	市内小中学校・特別支援学校に指導者研修講座のDMを513通発送
11	<p>◆出張教室・講座等の対応等、陶芸知識の発信による基地化</p>	<p>■学校をはじめ作陶活動を行っている団体や個人からの、陶芸技術、窯業機械の取り扱い方、メンテナンスの相談、および出張教室の要望があった場合には積極的に対応し、陶芸知識の基地化に努める ■陶芸知識の基地化 ■出張教室での対応の難しいケースは、陶芸センターでの講座受入が可能か判断し、積極的に対応する ●団体教室の開催 □開催数 □目標利用者数</p>	実施	実施	—	団体教室にて個別に対応
3 市内の公益的作陶活動に対する支援			10件/年 300人	14件/年 242人	A C	<p>・陶芸祭(電気・ガス・灯油)、電動ロクロ、修理・廃棄・移動相談(市内・県外) ・制作技法相談</p> <p>・団体教室にて個別に対応</p> <p>・団体ごとに内容、テーマについて相談し、従来の団体教室より対応を幅広く設定 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止により、5団体キャンセル・中止</p> <p>【成果】 ・小中高・福祉施設へのDM発送、各種広報により、指導者研修講座の目標数を達成する事ができました。昨年からの再受講(リピーター)参加もありました。講座前に事前アンケート(陶芸指導についての悩み等)を行い、担当講師と準備を進め、講座開催日には受講者と様々な指導対策について、情報提供する事ができました。 ・団体教室は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5団体(103名)の中止、キャンセルがあり、目標を達する事ができませんでしたが、昨年度より63名増(135%増)の利用がありました。団体ごとに、事前相談調整を行い、個々の要望を取り入れました。利用後、とても楽しい作陶体験でしたという話を頂き、次回予約に繋がりました。 ・市内、県外から陶芸技術、窯業機械メンテナンス等、電話相談が25件ありました。電話だけでは対応が難しい場合はメール等で写真を送付し、メンテナンスや作陶技術相談等について対応いたしました。</p> <p>【課題】 ・今後も地域の作陶活動の拠点として様々な情報提供を継続し、県外からの相談はシンリウ各支店と連携しながら、迅速、適切な対応を進めていきます。</p>

令和元年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

4 陶芸と市民及び来街者を結びつける場づくり	12	◆施設の象徴としての登り窯の活用	■見学用として活用するほか、公園内におけるパネル掲出場所として活用 ■象徴的扱いとし、印刷物等で写真を使い紹介	実施	実施	—	昨年へ続き、登り窯の構造断面図の掲示 動画再生回数2,664回	【成果】 ・今年度も陶芸祭(秋まつり)を、地域と陶芸を結びつける場をとして開催いたしました。陶芸祭期間中に開催する近隣地域との共同企画として、本牧市民公園とミニ盆栽(本牧市民公園が植物、陶芸センターが陶磁器植木鉢を提供)陶器市、バザー等を秋まつりで行いました。秋まつりでは地域の子供達や家族が楽しめる場として、本格的な陶器を低価格にて提供し、初日には大勢の来館がありました。三溪園とは陶芸祭期間中、入場割引を行い、文化自然も楽しみながら、予約なしで体験可能な教室を開催し、気軽に陶芸に触れる機会を設けました。 ・紙媒体への記事掲載として、広報よこはま「はま情報」、情報誌「ばど」の毎月の掲載、情報誌「ミレア」掲載、神奈川新聞記事掲載、新聞折込等にて宣伝活動をいたしました。地元密着型の情報誌「ばど」では夏休み親子陶芸教室、陶芸祭にて一面突き出し広告を掲載しました。掲載記事の効果は、アンケート結果により確認する事ができました。 ・一般見学者についても、施設内の案内を随時行い、陶芸への興味周知に繋がりました。隣接する三溪園から流れてくる海外からの来訪者には、すぐに持ち帰る事のできる、陶磁器アクセサリ組立体験にて対応し、陶磁器日本お土産として楽しんで頂きました。 【課題】 ・更なる陶芸文化発信のため、ホームページの改修、初めて陶芸にふれる方への興味喚起の工夫、広報活動の充実を進めていく事が課題です。	
	13	◆(指定期間5年間に)近隣地域と連携した取組を行うための企画検討。	■近隣地域との連携 ■陶芸祭での三溪園・本牧市民公園・地域町内会との連携	実施	実施	—	近隣町内会へ陶芸祭チラシ配布 ・陶芸祭中における、三溪園、本牧市民公園との共催、地域と連携の「秋まつり」を開催 ・本牧市民公園と「ミニ盆栽」共催 ・陶芸祭期間中、三溪園入場割引		
	14	◆陶芸祭で、初めて陶芸にふれる来場者のための企画実施。	■陶芸祭来場者への対応 ■予約無しでの陶芸体験の実施 ■お茶会・バザー・作品展示会での興味の喚起	実施	実施	—	陶器市バザー、アンケート回答による抽選会 当日参加可能な体験教室(手びねり、電動ロクロ、楽焼)開催 手づくり抹茶茶碗によるお茶会、作品展示会開催		
	15	◆施設利用促進のための広報・宣伝活動、ホームページや紙媒体の制作の充実	■SNSを活用して作陶講座等の情報発信をする。 ■すべての講座募集チラシの作成、配布 ■陶芸祭チラシの作成、配布 ■紙媒体への記事掲載の推進 ■ホームページの講座案内年度切り替え □ホームページの新着情報の更新	実施	実施	—	フェイスブックにて講座の様子、作品焼き上がりのお知らせ、施設の案内を発信 全講座チラシ作成 新聞折込4万部 ・神奈川新聞(陶芸祭、招待作家講座)掲載 ・情報誌ミレア「陶芸センター」紹介記事 ・広報よこはま「はま情報」 全講座年度内切替の実施		
	16	◆一般見学者へ質問対応や、陶芸ライブラリー、映像等による詳細な情報、電話やホームページ等を通じての相談等の情報発信。	■利用者に支障のない一般見学者の受入 ■電話・ホームページでの陶芸に関する質問への対応	実施	実施	—	一般見学者数1,252人 陶芸窯、陶芸材料、工房設営、制作技法に関する相談に対応		
	17	◆Webサイトによる施設案内	■ホームページ以外のWEBサイトへの情報掲載 ■ホームページ上のギャラリーの充実	実施	実施	—	フェイスブックの活用、ヨコハマ・アートナビWEB版 各年アマチュア陶芸展入選作品		
	18	◆陶芸関係のサイト等を活用した広報	■陶芸関係WEBサイトの活用 ■無料の全国規模の習い事サイトなどへの情報提供	実施	実施	—	陶芸広場、シンリュウホームページ マガル・ドット・ネット、ミレアWEB		
	19	◆(指定期間6年間に)陶芸センターの知名度アップ	■陶芸祭・「全国公募・横浜アマチュア陶芸陶芸フェスティバル」を通して近隣地区及び全国的に知名度を上げる ■メディアの取材に対する積極的対応	実施	実施	—	陶芸祭チラシ4万部配布、ホームページ、フェイスブックにより案内 情報誌ミレアより取材1件		
	20	◆外国の方向けの情報発信方法の検討	■英語版チラシ・パンフレットの設置 ■英語で受講できる自由教室受講の案内	実施	実施	—	一日体験年3回、陶芸祭、陶磁器アクセサリ組立体験英語版作成		

5 陶芸センターに関する情報提供及び広報・プロモーション

令和元年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和元年度 計画		実施状況		評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 作陶活動のための施設の提供	◆適切な施設開館及び施設の貸出	□開館日数355日、休館日11日 (休館日:清掃・空調機点検2日、電気点検1日、年末年始6日、臨時休館日2日) ■開館時間9時~17時 ■開館時間・休館日の周知(館内掲示・ホームページ)	開館日数355日 休館日11日	開館日数353日	台風による臨時休館、2日間	【成果】 臨時休館に関して、ホームページ、フェイスブック、電話連絡に於いて速やかに周知し、それに伴う混乱、トラブルを回避する事ができました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため約1ヶ月の利用が無くなりましたが、稼働率は90%、利用料収入は焼成費の見直しにより、目標数を上回る事ができました。 【課題】 特筆すべき事項なし	【評価できる点】 台風や新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休講という外部要因を除き、目標通り施設を開館し、貸室の稼働率も例年通り高く活用された点を評価します。 状況に応じた施設内の配置変え、職員同士の連携の強化などの工夫が円滑な施設運営につながっていると考えられます。 また、作陶愛好家の裾野を広げるためにも、一般見学者の受け入れは効果的と考えるため、引き続きの取組をお願いします。 【改善が必要と考えられる点】 引き続き、施設利用者に寄り添った丁寧な施設運営に期待します。
	◆公園条例に基づいた利用料金の徴収	適切な利用料金の徴収 ■陶芸成形室半日500円 ■焼成料100gまでごとに 150円	実施	実施	台風による臨時休館、新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休講について、利用者への電話連絡、ホームページ、フェイスブックにより周知		
	◆各種講座・新規利用者・貸室の利用率増加のための工夫	□貸室稼働率(348日) □貸室目標利用者数 □貸室目標利用料収入(焼成料含む)	100% 5,400人 4,200,000円	90% 4,811人 4,293,800円	貸室利用可能日348日、貸室利用日数314日、稼働率90% C B		
2 利用者ニーズの把握及び利用者サービスの向上、アイデアノウハウの一層の活用	◆アンケートを活用した利用者サービス向上と利用促進	■利用者アンケートを実施 ■アンケートからの改善の実施	全講座で実施	全講座で実施	全講座、自由作陶教室、貸室にて実施 新釉薬3種類導入、釉薬入れ替え1種類	【成果】 ・アンケートや受講者からの直接意見を受け、見直し、検討が必要な案件には 随時対応し取り入れました。 ・一般見学者が入りやすいように、施設入口に明るい色の織や花(植木鉢)を設置し、気軽に入りやすいよう配慮しました。 ・利用者数の増加に伴い、施設内のスペース確保のため、電動ロクロの配置の見直し、毎日の教室内の整理整頓を行いました。 【課題】 在庫管理、作品管理、整理整頓による施設内のスペース確保継続する。	
	◆利用者への配慮をしながら、可能な限り、施設見学を受け入れ。	■利用者への支障のない「一般見学者の団体」の受入 ■穴窯講座への団体見学の受入	実施	実施	13団体27名 薪不足のため中止		
	◆(指定管理期間において)施設スペースの有効利用方法等の検討	■講座教室内の整理整頓による動線の確保 ■釉掛けスペースの改善と移設の検討 ■不良在庫等の廃棄による収納スペースの確保 ■粘土保管スペースの上部拡張の検討	実施	実施	電動ロクロの配置換えを実施し、講座教室の動線確保 大型釉薬バケツを中型バケツに交換し、スペースの確保 劣化釉薬バケツの廃棄 粘土保管庫の整理整頓によるスペースの拡張		
	◆適切な運営組織体制と人材の配置(毎日2名以上の勤務体制) (センター長1人、所長1人、社員2人、事務員2人、講師9人、貸室アドバイザー6人、助手1人)	■センター長1人、所長1人、副所長1名、事務員3人、講師9人、貸室アドバイザー6人、助手1人	実施	実施	事務員増により受付事務員4名		
3 組織的な施設運営	◆適切かつ効果的な勤務体制の確立 ・各講座の指導部門では、講座担当の講師、貸室担当の貸室アドバイザー、それらの助手を配置。 ・事務部門と指導部門の円滑な連携を図るため、貸室アドバイザー・講師を兼務できる社員を1名配置。 ・事務部門に基本的な陶芸の知識、指導部門に専門知識等を提供し、全体的な知識のレベルアップを図る。	■センター長月3日、所長週3~4日、副所長週5日 講師、貸室アドバイザー、助手をローテーション勤務 事務部門は毎日2人以上のローテーション勤務 ■職務分担当により効率的な業務遂行	実施	実施	副所長は講師兼任。事務部門、指導部門の業務スケジュールの調整。 新規事務員には陶芸技法等、レクチャーを行う。 一ヶ月ごとの勤務スケジュールの作成、一週間ごとの焼成スケジュールに作成	【成果】 ・新規講座増加による事務員増加し、受付に於いてダブルチェック体制を強化し、連絡ミスの減少に繋がりました。 ・事務部門、指導部門の連携を図るため、毎日(朝、帰りの声掛けによるコミュニケーションにより、双方の連絡調整等、情報共有を行いました。 【課題】 ・更なる業務分担、効率的な業務遂行を目指し、早めの業務計画、スケジュールの作成により、効率的な勤務体制、働き方の改革を進める。	
	◆個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	■法令、条例及び規則を遵守し、利用者の個人情報の取扱いを適正に行い、事故の内容に努める ■改元に伴う情報システム改修等について対応する ■マイナンバー利用者の個人情報漏えい防止のため、組織的・人的・物理的・技術的安全管理処置を講じる ■横浜市の障害者差別解消法の指針に従い差別解消を促進する ■情報公開規程に則り、情報開示請求等の適切な対応 □人権に関する職員研修年1回 ■管理・運営上の近隣への迷惑行為への十分な留意、対策の実施 ■横浜市中小企業への優先発注	実施	実施	個人情報保護の徹底管理 シンリュウ本社において施錠管理とパスワードでの情報管理 情報開示請求0件 人権に関する講習年1回の実施 公園内の安全速度通行、公園業務通行車両への通行証の配布と安全走行の指示 電気設備、清掃業務、機械整備、新聞広告		
4 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組						【課題】 ・特筆すべき事項なし	

令和元年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和元年度 計画		実施状況			評価	
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 施設及び設備の維持保全及び管理、公園管理	◆施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	□清掃業者委託による清掃	毎日	3/15まで毎日実施	3/15までのすべての開館日の清掃	【成果】 ・毎月の機能点検、早めの自前修繕により、経費削減に繋がりました。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止休講中、作品の整理、電動ロクロ台の塗装など、通常できなかった箇所のメンテナンスや清掃に取り組みました。 ・横浜市との日常点検情報共有により、天井剥がれ修繕工事の実施(横浜市の予算)、施設内の安全管理維持ができました。 ・台風等による松葉雨樋の詰まり、屋根松葉除去を随時実施し、美観維持しました。 ・土埃除去の施設内空調機9台の早めの洗浄行い、夏場の猛暑に備えました。 【課題】 ・自前修繕等により経費削減に繋がっていますが、高所作業等(屋根掃除等)、危険が伴う作業に関しては専門の業者に依頼することも検討し、それによる経費増加が考えられます。	【評価できる点】 日常の清掃や定期的な保守点検等が適切に実施されていることを確認しました。また、天井剥がれの際や新型コロナウイルス感染症拡大防止策などについて、本市との情報共有により支障なく施設運営を継続しました。 稼働率が高い施設のため、新型コロナウイルス感染症の影響による休講という契機を逃さず、通常できなかった箇所のメンテナンス等の取り組んだ点を評価します。 【更なる取組を期待する点】 築50年と老朽化が進んでいる中、引き続き小破修繕を適切に実施するとともに、施設の不具合箇所を本市と共有するようお願いいたします。	
		□定期清掃	2回/年	2回/年	年2回の全館定期清掃の実施			
		■管理標準チェックリストの記録	実施	実施	毎日の管理標準チェックリストの記録			
		■施設設備の日常点検	実施	実施	毎日の見回り点検の実施、天井剥がれ修繕(横浜市による)			
		■早めの自前小破修繕による高額修繕費支出回避	実施	実施	電動ロクロ修理、事務所屏修理、事務所屏緩衝材取付修繕			
		◆保守点検、備品管理、環境維持の実施	□空調機器定期保守点検	2回/年	2回/年			年2回の定期点検の実施
	2	◆保守点検、備品管理、環境維持の実施	■給排水設備点検	随時実施	随時実施			給水設備の毎日点検、水道栓修理 5件
			■電気設備点検	毎月実施	毎月実施			毎月の電気施設簡易点検(本牧市民公園契約点検業者による)と自主簡易点検
			□消防設備点検	2回/年	2回/年			年2回の非常警報設備と非常避難路、消火器の点検
			□窯業機械の機能点検	毎月	毎月			毎月の窯業機械機能点検の実施
			□窯業機械の保守点検	1回/年	1回/年			年1回の陶芸窯の定期保守点検の実施
			□下洗い箱を設け、粘土、釉薬が直接流れないよう管理	毎日	毎日			毎日の下洗い箱の設置
3	◆公園の管理区域内の環境維持 ◆公園管理者との連絡調整	□排水溝、樹の掃除・汚泥量の記録	2回/年	2回/年	年2回の排水枺からの汚泥の排出と汚泥量の記録			
		■建物の美観維持のため屋根の松葉清掃や登り窯周辺の草刈	実施	実施	年5回の屋根の松葉清掃と登り窯周辺の清掃			
2 小破修繕の着実な実行	◆小破修繕の取組	■見回り点検による適切な維持管理	実施	実施	毎月のゴミルート回収車、電気設備工事車、自動販売機の入替業務、陶芸材料搬入の公園内通行の連絡調整			
		■見回り点検による適切な維持管理	実施	実施	水道栓修理、雨樋修理、施設内木部門・椅子塗装、中庭丸柱塗装			
3 事故予防及び緊急時の対応	◆事故防止体制・防犯、緊急時の対応・感染症対策等衛生管理の実施	■修繕部品の直接購入による修繕コスト削減	実施	実施	修繕資材、機械部品、水道備品の直接購入による経費削減			
		■緊急連絡網の整備と迅速な市への報告	実施	実施				
		□AED操作研修	2回/年	2回/年	年2回の防災訓練時でのAED操作研修			
		■警備業務一覧を職員全体で認識共有	実施	実施	退館時のWチェック体制の実施			
		■日常の見回りによる危険箇所の発見	実施	実施	館内危険箇所の報告と改善の実施			
		■消毒石鹸、アルコールでの感染症対策と嘔吐物処理のマニュアル化と全職員で共有	実施	実施	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、アルコール消毒液設置、スタッフマスク着用、ドアノブ毎日2回以上消毒、施設内換気徹底			
4 防災に対する取組	◆日常の取組、危機管理マニュアルの整備、防火・防災の取組、災害備蓄等の実施	■蚊の発生源の除去と野鳥の死骸の報告	実施	実施	見回り点検			
		■警備保障会社による24時間警備(機械警備)	実施	実施	総合警備保障(株)による24時間機械警備、監視カメラ4台設置			
		■緊急連絡網の整備と迅速な市への報告	実施	実施	台風による臨時休館、新型コロナウイルス感染症拡大防止による休講の報告			
		□利用者も含めた防災避難訓練	2回/年	2回/年	年2回の防災訓練時でのAED操作説明			
		■焼成についてスタッフの安全教育、防火管理の徹底	実施	実施	焼成管理、防火管理の徹底			
		□防災用品を準備、備蓄、更新をする	2回/年	2回/年	年2回の防災用品の更新と準備			
5 その他管理に関する事項	◆使用済み粘土、釉薬を毎日適切に管理する □産業廃棄物の管理状況をチェックし、横浜市ルート回収にて適正に廃棄する	■使用済み粘土、釉薬を毎日適切に管理する	実施	実施	毎日の管理			
		□産業廃棄物の管理状況をチェックし、横浜市ルート回収にて適正に廃棄する	チェック実施 1回/月	チェック実施 1回/月	毎月の産廃のチェックの実施とルート回収による廃棄			

令和元年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和元年度 計画		実施状況		評価	
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 適切な収支構造及び収支バランス	1	●収益の改善と固定経費の削減努力 ■陶芸材料の在庫管理を徹底し、計画仕入れを行う	実施	実施	講座ごとの計画仕入れ	【成果】 ・計画的な仕入れ、早めの修繕により、経費削減。利用者増が見込まれる新規講座による収入増。 【課題】 ・収支バランスを考慮した、受講料の設定	【評価できる点】 利用料金収入が予算を上回っています。また、自主事業収入の予算は達成していないものの、前年度実績を上回っており、施設が取り組んできた各種取組の成果が表れているものと考えます。 新型コロナウイルス感染拡大により利用の減少などの外部的影響があったなかでも限られた予算を効率的に執行しています。また、経費削減にも積極的に取り組むことにより、施設を適切に運営しているものと評価します。 【更なる取組を期待する点】 引き続き収支バランスに配慮しつつ、今年度新たに挑戦した独自グッズの販売の促進などによる収入増にも取り組んでください。
		■修繕費用の突然支出に備え建物、設備の劣化箇所を常に点検し把握する	実施	実施	毎日の見回り点検		
		■利用者数の増加が見込める新規講座を企画する	実施	実施	初めての方も気軽に参加できる「週末3日間陶芸講座」「陶芸入門5日間講座」を開催		
		■四半期末での収支の予測	実施	実施			
2 指定管理料のみに依存しない収入構造の検討	2	◆指定管理料のみに依存しない収入確保の取組	■自主事業講座の受講率を高め、増収を図る	実施	実施	利用者アンケートに要望する講座の設定	【成果】 ・永年の課題であった独自グッズ販売を、ラクビーワールドカップ、オリンピックに向けた観光客対応お土産グッズ、体験教室にて実施。直接的な費用対効果は得られませんでした。宣伝による陶芸センター周知、グッズ作成によるスタッフのモチベーションアップ等、良い影響が表れました。 【課題】 ・利用者アンケート等を活用し、さらなる利用増が見込まれる講座の工夫。
		■上級講座による利用料増収	実施	実施			
		■独自グッズの開発、販売の可能性を図る	実施	実施	海外からの来訪者に向け、陶芸センターオリジナル陶磁器アクセサリーの販売。気軽に参加し、その日の内に持ち帰る事が可能な陶磁器アクセサリー組立体験講座の開発		
3 経費削減及び効率的運営努力	3	◆経費削減等効果的運営の取組	■固定経費の削減努力等	実施	実施	利用者、文化振興課からの紙袋、梱包材、古新聞、雑巾、アイロン、手拭、タオル寄贈による経費削減、再利用	【成果】 ・横浜市(天井剥がれ修繕)、利用者(梱包材等の寄贈)からの協力を得ながら、施設運営に取り組ましました。 ・灯油の直接買い入れによって、年間128,000円の削減ができました。 【課題】 ・施設の老朽化に伴う電気設備の修繕費の増加対策が必要です。
		■材料の直接仕入れによる輸送コスト削減	実施	実施	粘土輸送コスト削減		
		■液化燃料(灯油)の直接購入による経費削減	実施	実施	灯油窯用の灯油直接購入による年間128,000円削減		
		■自前修繕による修繕経費の抑制	実施	実施	門修理、電動ロコ修理、水道設備修理、土練機修理		

評価項目		令和元年度 計画		実施状況		評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標		説明	自己評価	行政評価	
	1				令和元年度の事業は台風による臨時休館2日間、新型コロナウイルス感染症拡大防止休講(約1ヶ月)の影響を受け、昨年度の利用者数(実績)を上回る事ができませんでしたが、予約数を含めると昨年度を上回り、利用者の増加が見られました。また、急な事態にも迅速な対応ができました。 講座については、リピーターの多い自由作陶教室では受講者が飽きない新釉薬の導入等の工夫をしました。新規利用者拡大のために、気軽に体験できる週末3日間講座、陶芸入門5日間講座の企画や、新素材(透光性粘土)を導入し、新たな試みに取り組みました。既存の講座については内容レベルアップ等、見直しました。 また、ラクビーワールドカップ、オリンピックに向けた外国人来訪者の対応として、陶磁器アクセサリー独自グッズの販売、組立体験を実施いたしました。 広報については、紙媒体や、経費のかからない無料SNSの活用により、その効果が少しずつ現われています。一般見学者の対応や、利用者による口コミによる新規利用も増加しています。また、市内県外からの陶芸に関する質問や、相談も多岐にわたり、陶芸知識の発信基地化の役割が年々増えています。 施設管理については自前修繕と日常点検に於ける早めの修理により、経費削減に繋がりました。休館期間は天井剥がれ修繕工事(横浜市予算)、窯業機械・施設点検、普段出来ない小破修繕、メンテナンス、教室内レイアウト変更によるスペース改善に努めました。 今後も、様々な年代、陶芸初心者から経験者まで、近隣の施設と連携しながら、幅広く楽しめる施設になるよう尽力していきたいと思っております。	年間を通じて、指定管理者の専門性を活かした魅力ある各種講座の企画・実施や、利用者の声に答えたきめ細やかな施設運営において様々な工夫を重ねた成果が出ているものと評価します。 講座においては、新規、既存どちらの利用者に対しても作陶愛好者の裾野を広げるために有効な取り組みを重ね、講座の質が高められており、利用者の増加やリピーターの獲得に繋がっていると考えられます。 広報・プロモーションについても、費用と効果のバランスを取りながら効率的に行っており、各種の取組が施設の知名度向上につながっています。 元年度は、新型コロナウイルス感染予防により休講となる期間がありました。引き続き、公共施設として適切な対応を行うとともに、状況に合わせた柔軟な施設運営を期待します。	